（九日夕刊）

磐城新聞

休刊（祭[illegible]第一第三日曜）
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢）
廣告料（二行五十錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

信神する者が迷信？易を見る者が迷信？

古カヂ町　青山而象

世上神を信仰するものあり、易占を信仰するものあり、併し一方より見れば彼等は迷信なりと又一方より見ると彼等が迷信なりと言ふ然らば何れが迷信であらふか此問題を解決する前に於て神の有無を明かにせねばなるまい。此世の中に神と言ふものが有るであらふか、無いであらうか、私は確然と神の存在を自信するを以て朝夕禮拜し信仰するものであります。

夫れ神なるものは天地間至る所幽明の中に嚴在して居る、所に神は祭祀すれば集り祭祀せざれば散ずと聖人も既に證明せられてある長くも我皇室に於かせられても古來より今日に至る迄此祭祀の御儀を盛大に執行せられ神意を稟けて國事を行はせらる此國事を政と言ふ祭事の意義であります。

如斯上は皇室より下は吾々庶民に至るまで神は信仰なすべきものになつて居る故に我國を神州と申します。されば此世に神の嚴存すること明瞭である。こ[illegible]明瞭であるにも拘らず苟且ツ無神論者が多數にあるは試に之を我全國に見る時は有神論者は十分の七であり、無神論者は十分の三である、その七ツ内又分れて半分は眞に神の存在を確信する人であり其ツ半分三分五厘は牛に引れて善光寺詣りの半信半疑の分で只神は難有いと云ふだから信仰しますと言ふ人である。このやうな信仰家になると迷信に陷り隨分無鐵砲なことをやつて居る。水一升を神水と唱ひ難病平癒すべしと朝から晩までに飲み盡し却て胃病をこしらへてるものがいくらもある殘り三分の無神論者は絶体神は拜がまぬと言つておナン派は障はらぬ神に祟しと遠のる人もある。

ところで此三分五厘の灰色信仰者を當てこみ色々な宗教を唱へて布教者が入り込んで唯我獨尊の主義を吹込んで他守は勿論皆者易者を排斥して自己恰も上人樣になつたやうに夢中になつて居る。

當地方など見ると矢張そんな形勢になつて來たやうである。大体宗教なるものは勸善懲惡が根本義であらねばならぬ筈なるに病氣治療が根本に唱導して恰も醫者の領分を獲得して居る觀をしてゐる。信神も或程度まで精神患者を治癒し得べき、先以て病氣は醫師に待たねばならぬ。のみならずた醫者でなければ病氣は治らぬ、そこで醫師には迷信は絶体にないが易者となると往々迷信の語を耳にするのみならず前述の三分五厘の灰色信者よりは絶体に迷信の語を浴びせてくる。

私は非常神易を弄するの立場より是等迷信の語に向て辯明するの必要を認むるのである。

易者にも種々の方法に因て判斷する者ありとするも我神易に於ては決して迷信の語を挾むことを許さない神は聲なく形なく至る所幽明の中に在しまし吾人々類を擁護しつゝある毎に種々の祥瑞を降して吉凶禍福を示して下さる。然れども人は之を見て其神意の如何を知ることが出來ない。そこで古の聖人が後世を非常に御神配なされて神人間交通の易術を發明して後世に貽されたのである。繋辭曰聖人憂患後世作易とあり。人若し大事大變のあるに際し此易術を以て誠意精心神に向つて質問する時は神は早速其質問に應答して下さる繋辭曰問焉而以言其受命如響无有遠近幽深遂知來物と又曰神之格不可度矧射思

一其時に用ふる靈器をらう木笹竹と稱する

明日の吉凶

新曆八月十日　舊曆六月廿五日

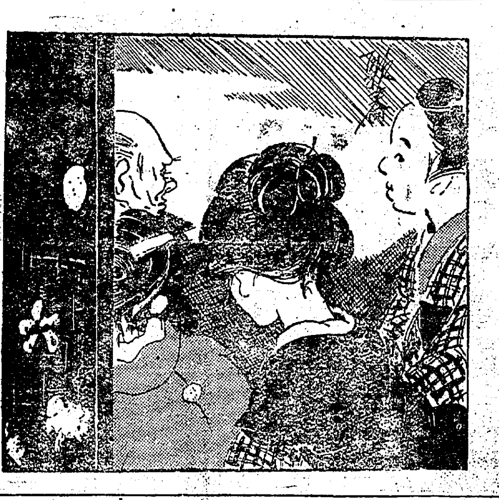
▲一白　外部の不安去らず進まんとすれば失敗あり▲二黑　發展向上の大吉日たり氣緩みせぬやう注意▲三碧　地盤を固めて進めば永久の基を開くべし▲四綠　別に無理を働かずとも自然の發展あるべし▲五黄　一度び立たる計劃は何處までもつらぬくべし▲六白　交際上注意せねば爭論を生ずることあり▲七赤　空想に走らず堅實にじり／＼進むが尤も吉▲八白　行詰まり居りたる計劃も追々と緒に着くべし▲九紫　一時不安はあれども遠からず訓調に赴く。

講談

幕末秘帖　狂怒乱心

(12)

渡邊默禪作　宮野歌春畫



「た前にの、少々た尋ねいたしたい事があります」

「ハ、ア、手前に……何等の儀でございまするか、平馬存じ居る筋なれば何事に依らず有体に申し上げまするで、御斟酌なら御尋ねくださるやうに、はい」

此の切口上か一風變つてゐるので女中どもはそろ／＼袖を引いてくす／＼を始め出した。

「外のことでもないがお前はアノぐわんとやら申すことを御存知かの」

「ね、何と仰せられます」

「ぐわんぢやさうな」

「夜猿？む、猿のことで御座るか」

「いね、猿のことではないのぢや、ぐわんー」

「あア、守義の御穿鑿ごござりまするか、イヤいつとながら學問文事に御丹精御思召、平馬恐れ入りましたる次第で、さて其のお尋ねのぐわえんと申しまする文字は[illegible]コノ止まるといふ字の下に月を書き添へますと肯といふ字に相成ります、肯の訓はがへんず物事を依賴されて快く承知をする、それが即ちがへんずると申すので、エー論語に……」

早呑込で滔々と講釋す

「あゝ、コレ平馬どのや」

「は、はッ」

「文字のことではございませぬ」

「え、では御座らんので……是はれたり」

女中はこらへ切れず一度にぷッ！とう／＼破裂してろつた、滿座の笑聲、龐を搖がすばかり

「何か、下ざまの勸め向にそんな稱呼がありますことやら、それをた尋ねいたしたいので」

「あア、左樣な儀で」

平馬は稍と解めたが、偕憶ひ出せぬ

「む、何やら左樣な者もあつたかのやうに心得まするが……ハテナ」

痩せこけた頸を長くして白髮天窓を右左に振動かしながら、頻りと考へてゐる

「お解りでないかの」

「むゝ、あれぢや」

いきなり膝をぽんと打つて

「奥さま、異なことをた尋ね遊ばさる、そのぐわゐんと申す者は定火消の手下に附いて居る賤しいものでござるわッ」

「わッ、賤しいもの」

籌子は意外の面色、女中どもも、やゝ失望の氣味で眼を見合せた

平馬説、所によると江戸市中には十組火消屋敷がある、指揮官は定火消役と稱へて、持高五千石以上の外三百人扶持、城中伺候の席は菊の間で、若年寄の支配、與力六騎、同心三十人を率ゐて、火事といふ場合に驅附ける。火ばかりではない、非常事變の場合にも出馬して警衛するのが任務で、餘程機敏な人材でなければならぬ、重に火事場見廻役、聖堂學問所世話掛などから昇進したものだ、其の屋敷は城を中心にして八方の要所々々に置かれたが屋敷に抱へてある火消、これが即ちぐわゐんだとの事

「字で書きますと臥煙、煙の中に寢るといふ意味でがなございませう、大抵江戸者が多うございまして中には身柄の子息などが醉狂に此のぐわゐんに身を落すのも御座いまする、いかに寒中でも屋敷では仕着せの法被一枚に白足袋跣、身の刺青を人に見せるのが自慢でございますさうな、火事に駈附ける時はなか／＼威勢が宜しうござるが、平生の身持と申しますとイヤハヤ、毎日ぶら／＼遊びましては賭博、喧嘩、髮の結振や法被の着こなしに浮身を窶してゐるといふ厄介物錢が無くなると人の家へ押掛けて尻を捲つて難題をいふ、暴込まれたが災難でまア當百の二三枚も遣はしませければ酷い意趣返しをされまする、それゆゑ町人なぞは蛇蝎の如くに爪彈きをいたして居りまするが、奥さまには如何なる思召よりして左樣な下賤の事をた尋ねになりまするか合點の參らぬ儀じ」

吉田眼科醫院

一の井洋食謝恩デー
八月十日ヨリ十月卅一マデ三ケ月間三回抽籤
抽籤方法　毎月廿五日　常磐毎日新聞　磐城新聞　磐城時報　立合抽籤ノ上紙上發表
〆切　廿八日
高級洋食一品毎ニ　お買上券一枚進呈
景品　一等二本　二等三本　三等五本　四等十本　五等三十本
美景澤山　洋式宴會　仕出し
一の井　電話一六七番

例年の通り舊盆迄で　夏期謝恩大興行（第三週目）
◇日活超作品　桂武男、久米讓、磯川元春、櫻木梅子、瀨川銀潮、吉成てる子
侠客亂陣　喧嘩の極意
△蛟龍池中のものならず時來つて昇天す　弱者永遠の弱者ならず
◇日活現代活超作品　南光明　大崎史郎　築地浪子
明治書生　拳骨先生
今は昔書生道華なりし頃、猛優南光明の大山が蠻勇振りを見よ
◇日活超大作映畫　松本泰輔　澤村春子　中村英雄　金子弘
薄命劍史　黑面鬼
薄命の幼兒三吉は祖父を殺した滯呂木を父とし、又幼兒を探す門付女と黑猫　泰輔の眞價此一篇に現る
改定料金　普通席金十錢　壹等席金參十錢　特等席金五十錢
八月九日寫眞差替　十二日曜學生デー　高級映畫
平館　電（四六六）

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり栽けば社員が御伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社　平出張所　電話六〇三番　五四一番

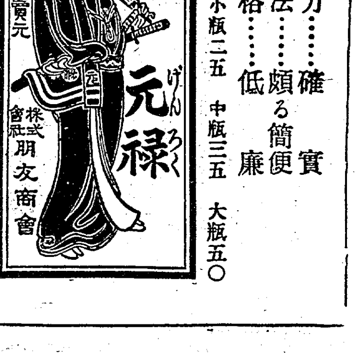
外科　婦人科　內科　X光線科
外科一般　耳鼻科　花柳科　產科　婦人科
赤心堂病院　平町田町（電四七五）

歡待……
先づ奬むるに蜂ブドー酒の一杯を以てす　その美味と滋養……賓客を饗應すに最も意義深きもの！
蜂ブドー酒
【蜂印香竄葡萄酒】といふ名稱を貴樣のお奬めに依り且は時勢の推移に鑑み今後【蜂ブドー酒】と改めます　なほ市場にある從來のものは其儘として御安心の上引續き御愛飲を願ひます
株式會社　近藤利兵衛商店

開店御披露
氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豐富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフヱー幸樂　平町六丁目　電五三九番

內科、小兒科（院長每日診療）　院長　醫學博士　難波睦　內科部長　粟野省三
外科一般花柳病科　外科部長　醫學士　氏家憲介
產婦人科　產婦人科部長醫學士　五十嵐雄二
藥局　藥局長　吉本孝平　本院主事　賀澤忠治　電話七二番
最新獨逸シーメンス、ユニバーサル、ヘリオドル　X光線裝置　五月十日ヨリ診療開始　主任　醫學博士　難波睦
入院自炊ノ便アリ
■看護婦募集
磐城共濟病院　平町　電話六四一番

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣　並に部分品提供
當分の間　奉仕的破格値段
三球セット取付共
A　百貳拾五圓
B　百圓
C　七拾圓
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町　日東商會　電話四二八番



ゑらが染　元祿
發賣元　株式會社朋友商會
▲染色力……確實
▲使用法……頗る簡便
▲價格……低廉
定價……小瓶二五　中瓶三五　大瓶五〇
大販賣店　山野邊藥局　平町五丁目角

平税務署管内の印紙税集合檢査

左記日割で嚴重に

同様家賃通帳も

平税務署では次の如き日割で管内印紙税の集合檢査を執行する事と決定した

平町十五、十六、十七の三日間平税務署、四倉町十八日四倉役場、湯本町十八日湯本役場、植田町二十日植田役場、勿來町廿日勿來役場、小名濱町廿一日小名濱役場、江名町廿一日江名役場

以上毎日午前九時から午後二時まで執行するが檢査を受くべき物件は昭和二年八月以降作成の通帳、判取帳受取書、其の他印紙税の支配を受くべきもの全部であるが最近貸家を有してゐる人が家賃の通帳を出してゐる者が澤山ある樣だが此れも印紙税の支配を受くべきものであるから檢査を受ける樣にして欲しいと稅務當局は語つてゐた尚此の檢査に限り印紙の不足、無印紙等のものを發見しても檢査官の前で補正すれば處分はしない方針であると

移出米檢査

植田驛に設置

石城郡菊多米穀商組合では從來移出米檢査は植田驛ホームに於て取扱つて居たゝめ非常な不便を感じて居たのみならず年々移出檢査俵數が増加するので從つて驛ホームで行ふことは檢査上種々支障を來すためこれ等の支障を除去する目的から同組合では曩に縣に對し同驛前に移出米檢査所設置方陳情中であつたがこの程許可されたので檢査所を新設し去る一日から取扱ひを開始した

平町地方の傳患

漸く終熄の色

平町で目下八名を收容

炭礦方面も良績

平町地方は今春三月以降天然痘、腸チブス其の他の惡疫の大流行で極度に慄ひ切つてゐたが例年惡疫の流行期節となつてゐる梅雨期から夏季にかけ返へつて終熄する樣な模樣となつてゐる即ち目下平町の隔離舍には猩紅熱一、赤痢一、腸チブス六、合計八名の患者が收容されてゐるが中赤痢平町三丁目加藤浩二、チブスの紺屋町日黒頭の兩名も殆んど全快したので近日中に退院の見込である昨年の八月中に於ける隔離患者數十二名に比しては大分好成績で此れは三月以後の大流行に慄ひ切つた地方民が傳染病の豫防思想に覺て來た結果である事は勿論だが天候の不順に依る氷水や不良の飲料水等が一般から閑却せれてゐた形で此の方面からも幾分惡疫の流行を防ぐ原因となつたものらしいと觀られてゐる尚內鄕、湯本其の他傳染病の本源地とも言ふべき炭礦方面にも今年は案外患者の發生を見てゐないので平署の衞生係りは非常に喜こんでゐた

石城名所めぐり（七）

往古を偲び暗然たらしむ

平舊城跡と附近

△岩城大館址

大館は平町藥王寺の西方に當り今好間村下好間の地に屬す、傳へ云ふ、昔常陸大掾平國香の末葉則道出て奧州藤原清衡に賴る清衡妻すに養女德姬を以てし之れを岩城に封す、因て岩城氏と稱し子孫世々雄を海道に張り、且つ其の一族を所在に分封す、則道より十六代を常朝といふ、應永年間始めて大館を築き之れに住すと、則道より朝義まで十五代の居城は何れなりしや詳かならず、常朝より九代を經が貞隆に至り羽後の龜田に移され鳥居忠政來り領す、赤布崎見物岡に新城を築きうつり居す、因て大館城址へ寬永初年に出羽湯殿山の分靈を移し祠を建てゝ之れを祀る、又た領內の諸村に其の分靈を祀る、今御塚權現と稱するもの是れなり、大館の絶頂は馬背の如く西方に千盤敷と稱するあり、東方平衍にして瞰下すれば平町、飯野村、夏井村藤間浦の海岸遠く双眸に入る、南方は田動を隔てゝ內鄕村の連脈に對し西北に湯嶽、赤井、二箭の高嶽天に沖す、四面開豁にして常時要害の地たるべきは今日よりも明かに推知するに足る、戊辰の役奧羽軍北高丘より亂射し湯本より來たれる官軍を惱ましたる所なり

△平　城　址

平城跡は平町の北偏にして中世飯野八幡宮の在地なり、慶長七年鳥居忠政古祠を轉じ築城す丘陵に倚り、溪谷を包み方八町許り內外二重の溝を廻らしたり是より先き岩城貞隆羽州由利郡龜田に移さる、鳥居左京亮政城入部封十萬石元和八年羽前山形へ轉じ同年內藤左馬介政長之に代り相續くこと六世延享四年日向國延岡へ轉ず同年井上河內守利容代り寶歷六年安藤對馬守信成封五萬石を以て維新に至る江戶幕府の季に當り城主信正井伊大老の後を承けて挺身して老中職に居り內外の危機を調和し最も公武合体の急務を悟り頗る力を盡したりしが時運會せずして罷免せらる尋で戊辰の亂其の兩軍追擊の激衝に居るを以て城市破滅君臣逋竄の慘禍を見る、蓋し會桑二藩に亞げるものなり、今僅に殘壘廢塚存するのみ、其の本丸三階櫓の下に鐵道停車場を置かる、一瞬にて今昔の感偲ばしむ。

△平　城

平城は一名飯野城とも稱し西表丘の平坦より入るを六間門といふ、夫より黑門を入りて追手門に至る、門を入りて右に石垣を重ね之を石火矢臺といふ、夫れより中門三階樓八ッ棟樓の三櫓あり此の丘の高さ數丈其丘下を廻るを堀坂堀と稱す、又東襄門を入りて中仕切門に至る、左の丘に弓櫓あり、夫れより埋門を入りて彌市櫓、形途師隅圖の四櫓あり、中仕切門の中途より北に入りて二の丸三の丸に達す、本丸この間に天然の大池あり丹後澤といふ、又た城の南よりすれば坂の半途にあるを城坂門といふ夫れより曲折して追手前に出づ、此、左の丘に鐘樓あり又城北よりすれば內張玉門あり、夫れより杉平門を入りて黑門に達す、又外堀は城の四方に廻り田町播槌小路、不明、鷲の四門あり其の南方外堀を隔てて市外に通す、ああ名聲四方に轟きし平城も一たび彈丸硝雨に浴しては廢城の跡僅かに其の面影のみを存せしが明治四年に至り之れを破壞し全く舊觀を失ふに至りぬ心なき藤葛徒らに長く殘壘に延び菱歌清喝冥に暗涙に咽ばしめ痛恨悵惆の情轉た人の腸を斷たしむ。

平驛の改築

明春三月起工

平驛舍の改築は總工費二十餘萬圓を投じ鐵筋コンクリート二階下を驛舍に階上を車掌室にする豫定だつたが本省の緊縮方針にたゝられ設計を木造平家に變更今明年の二ケ年繼續事業となつたので今秋十月頃の起工も明春三月に延期となつた

原因なは未明な

傾城トンネルの龜裂

本省全力を擧げて

猶調査を經續

常磐線、綴、湯本兩驛間の傾城トンネル內に生じたるその龜裂は水戶保線事務所應援を得て平保線區事務所員が徹夜應急修理する一方鐵道省、東京鐵道局、水戶保線事務所、仙臺鐵道局の各方面から技術官が續々現場に來て龜裂の原因を調査した結果、付近一帶の山脈が異動しつゝあることは各技術官の意見一致したが龜裂が山脈の異動のためであるか炭坑かトンネルに接近した結果かあるひは火山脈の漸次冷却したのによるか意見がまち〳〵でこの解決はひとり傾城トンネル今後の修理方法を決するばかりでなく鐵道トンネル開さく上重要となるので鐵道省では平保線區事務所に命じ刻々の變化狀態を速報せしめ本省はもちろん全國の鐵道技術官に研究させて居る

植田青年團が

記念事業

神社昇格運動

石城郡植田町青年團で御大典の奉祝記念事業として敬神思想涵養を目的として村社八幡神社の手洗ひ屋根を建設すべく過般の總會にて決定し七日同社拜殿に午後六時から臨時總會を開き滿場一致で可決を見た工費は納五百圓にて青年團の支出以外一般の寄附にまつ事となつたが古川、鶯兩縣議及宮川社掌等により目下昇格の運動も開始されてゐる矢先でもあり寄附の募集も樂觀されてゐる尚新設さるべき屋根工事は檜の破風造りにて銅板張りにされるものであると

衞生宣傳

一トセイ節（其の二）

飯野村　猪狩與之

十一トセイ
今は昔と異なりて
醫學も非常に進步して
最新式の療法は
概ね科學應用で
効果も直ちに顯はれる

十二トセイ
日進月步の發達は
色々機械の發明や
諸般の準備も何もかも
總て至れり盡せりで
事經怪に感じられ

十三トセイ
產を控へる御婦人は
常に養生第一に
產婆の方や產科醫に
健康診斷時折りに
胎兒の發育完全に

十四トセイ
月日毎日指折りて
衞生大學に靜養し
月日滿つれば安らかに
分娩してぞ御喜び
產後の營養充分に

十五トセイ
御婦人方には心得て
赤チャン大學に親切に
取り扱ひも叮嚀に
次へて母体の健否をば
直ちに影響するものぞ

十六トセイ
ろ〳〵發育せぬ內は
常に用意も周到に
ねん寢ろ、やれ寢ろ、ばんぱこし
哺乳などにも制限し
胃腸を害せぬ樣にせよ

十七トセイ
七八才に至るまで
坊や孃やで愛されて
晝夜の管視も怠らず
子守付き添へ嚴重に
風引などをばさせぬ樣に

十八トセイ
早くも通學出來る樣に
朝夕神懸け祈られて
滿七才を待ちこがれ
元氣のない時じれる時
必ず病氣を意に留て

十九トセイ
苦しむ時にわやれ遲し
咳など繼けりや危險なり
デフテリヤなど故更に
直ちに注射を施しな
倒はぬ先きの前の杖

二十トセイ
人類のみか生き物は
滿つれば缺ける譬ひあり
數か到れば皆最期
冥土の旅ひの一里塚
之れ天なりや命なりや

軍用馬匹檢査

植田警察署管內にたける陸軍徵發馬の馬匹檢査日割は左の通り決定した

△十日十一日（植田元小學校庭）△十二日（勿來小學校庭）△十三日、十四日（田人饗場）△十五、十六日（上遠野饗場）

小名濱商港視察

けふ來平した內務部長

本店に歡迎會

本縣伊藤內務部長は本縣に赴任後石城郡下の重要問題たる平小鐵道問題小名濱商港問題其の他四倉、豐間の漁港改修問題に關し實地視察を兼ねて今九日午後一時四十二分平着磐越線旅客列車で來平猪狩平署長、工藤土木監督所長等の案內で平町上水道配水池、土木監督所、裁判所等の視察を爲した上住吉屋本店に投宿したが伏見平町長、猪狩平署長等發起となつて官廳方面關係者は住吉屋本店に於いて九日午後六時から盛大な歡迎の宴を張つた尚伊藤內務部長の巡視旅程は十日午前八時三十分四倉行同町漁港實狀豐間村由春院及漁港實狀江名漁港、小名濱町水產組合、水產試驗所測候所

同夜新米に一泊△十一日午前八時半勿來町及植田町同日歸廳の豫定である

川に墜ちて危機

少年を救ふ

石城郡平窪村大字大室松崎末松六男榮造（六）はさる五日同村幕の內假橋の上で連日の降雨にて增水せる夏井川を見てゐる內誤つて足を辷らし河中に轉落急流約百間を流されたのを同村長谷川磯五郎（四五）が發見身を躍らして水中に飛び込み浮きつ沈みつしてゐる榮造を救ひ上げ應急手當を施した結果間もなく蘇生したが氏は別に自分の功を誇る事なく默してをつたので近所でも知らぬ人が少くなかつた程であると

山に登る

自動車

村民大喜び

石城郡三坂、澤渡組合村と好間村間の惡路は最近自動車の通行に差支ない程度迄になつたので縣議若松美三氏及び平町三井乘合自動車業より同區間の自動車運轉を出願されてゐたが去六日尙ほ六日念のため前記工藤所長猪狩平署長の乘合で實地調査を行ひ支障なしといふことになつたので兩出願共に近く許可さるもの〻如くであるが同村民の多くは初めて自動車を見ることゝなるので飛び立つ樣に喜んでゐる

スポンヂ大會

揚土遂に優勝

四對二で高等科惜敗

昨日の決勝戰

スポンヂ野球大會決勝戰は前日に引續いて八日午後二時から第一校庭に於いて準決勝に商業に辛勝した揚土と優勝候補と目された記念團を粉碎した小學校高等科の間に愈々戰の火蓋は切られた審判清水、壘審水野

揚土　四—二　高等科

揚土先攻伊藤の球勢定まらざるに乘じ巧みに二點を先占すれば高等科一點を盛り返へす第四回まで兩軍無爲揚土二點を入れて大勢を決したと見へたが七回の裏高等科勇躍して一點を入れ形勢逆睹し難いものがあつたが遂に四對二で惜敗す、斯くて榮ある第一回スポンヂ大會の優勝旗は平第一校の職員チームたる揚土の獲得する處となる午後四時閉會

今年度納稅

成績良好

特別稅は近く

督促狀發送

今年度の平町に於ける縣稅雜種稅及營業稅の納入成績は不況の折柄案んぜられてゐたが案外に好成績で縣當局では整理の爲め八日未納者雜種稅二百八人三百七十一圓七十五錢及營業稅百廿二人三百六十九圓三十七錢の督促令狀を發送した尚平町の今年度特別稅戶數割成績も比較的良好であるが整理の都合上近く未納者全部に督促狀を發する筈である

湯本の傳患

小川附近のチブス

平町における腸チフス患者は漸く減じて來たが隣接した湯本、內鄕、小川等各町村に昨今蔓延し現在患者湯本町十名小川村七名あり八日小川村では自動車運轉手菊池十治兵衞妻とめ（三八）長男の勇（九）の兩名に感染隔離、本年に入つてから平署管內のチフス罹病者合計百九十名に達したので平署でも驚いてる

平町地方の昨今

仕事を失つた勞働者が

乞食俄かに激增

平町を中心に生活してゐる多數の自由勞働者は約一箇月に亘る連日の降雨にて全く職を失ひ其生活の困難なる事は非常なものである故に之等自由勞働者は止むを得ず寄附帳を作成して平町附近の村落に至り每日幾分づゝの喜捨を受けて其日の生活をからうじて營みつゝある有樣であるが之等自由勞働者に對し斯かる行爲を永くせしめる事は由々敷き社會問題として識者間に何とか救濟の途が無いものかとされて居る有樣なるも現在の如く不景氣の狀態では全くその方策がない如くである

高橋氏夫人

華道研究

小原流の宗家に

七日出發す

平町白銀町高橋龜松氏夫人サク子女史は華道研究の爲め七日大阪市に出發同市小原流家元に就いて研究中であるが來る廿五日頃歸平する豫定であると

石城酒造組合

幹部會

酒造夏季講習

石城郡酒造組合幹部會は去六日午後一時から平町組合事務所に於て開催本年十月平町に開催する縣下清酒品評會につき協議したが九月三十日から三日間酒造夏期講習會を開くことゝなつてゐる故に品評會もこれと同時に開催すべく期日を繰上げてもらひたいと縣に陳情することになつた、なほ同品評會出品點數百點會場には元郡役所を充てる筈である

農事講演會

最勝院で開催

石城郡農會では日本一の百姓として知られてゐる松本喜作氏を迎へて郡下各地に於いて農事の一大講演會を開催する事となつた旨既報

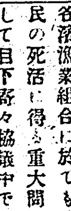
四苦八苦の

磐城七濱

低資の融通を

受け難局打開

打續く變態的天候の爲め磐城七濱は文字通り四苦八苦の域に沈淪してをり漁師如きは今は日用品の購入、事欠くはおろか鍋釜の食器類に至る迄入質し今は質草さへもなく天を仰いで何れも青息吐息の狀態にあるが各濱漁業組合に於ても地方民の死活に關る重大問題として目下寄々協議中であるが結局各濱より代表者を擧げて關係方面に向つて低利資金の融通を受け急場を逃れることになるであらうと



◆ソノハナといふ藝者が、オヤ間違つたのかモトへ、その江といふ藝者といく子が一座すると、どつちもツンとしてやんだ顏をしてるハテ變だわいと古事來歷いわれ因緣を調べて見ると、ナンのことだ◆高いのと低いのと凸坊、凹助、山と谷其對照、妙を見て、イタッラな客は「高い鼻から低い鼻見れば」なんて唄ふので、興黨と野黨の如く、犬と猿の如く、鰻と梅干の如くさいふ形勢だとサ◆義太夫の江經に曰く『サ、いく子の鼻高しと雖も、これをたゝるを悲しまん、その江の鼻チョッピリと雖もこれをつかば愛へなん』だつて。ウソ吐◆そこで陰陽和合の理ぢやないか、そんな事をいつたら、なんちやないかツレ男と女が一ショに居らないちやないか、二人とも仲よ、することだよ、物に凹凸あれは陰電氣と陽電氣起る、その平均を得んとする處に風雨雷鳴が起るナニなどでカミナリだつて默りよ。

今日の溫度と明日の天候

（小名濱測候所發表）

本日正午の溫度　七十四度八分

明日の天氣　北東の風　曇り

平町研町（公園下）

產婆　草野靜枝

電話（呼）四四三番

內科　小兒科　花柳病科　入院應需

藤沼醫院

電話[illegible]四五〇七番